

しもつけこくふ しゅつどぶつ
下野国府の出土物



しもつけこくふ しゅつどぶつ すずり
下野国府の出土物としては、硯、
もっかん かみ もんじょ へいよう
木簡（紙による文書と併用され
たもので、もじ か たんざくがた
のきふだ うるしがみもんじょ ふよう
木札）、漆紙文書（不要になっ
たもんじょ うるしおけ がみ
た文書が、漆桶のふた紙として
しょう のこ しりょう
使用されたために残った資料）、
ぼくしょどき どき もじ か
墨書土器（土器に文字が書かれて
いるもの）などがあります。特に、
もっかん
木簡数は約 5400 にもなり日本

さいた
最多です。このもっかん から、とうじ よう ちょう ぜい とうさんどう とお
当時の庸・調などの税が東山道を通っ
てみやこ はこ しもつけのくに みやこ
て都まで運ばれたことがわかり、下野国と都のつながりをうか
がいし
が知るすることができます。

（「栃木市のあゆみ」栃木市教育委員会から）